

皇海山山行報告

【山行日】2018年 10月 23日(火) 曇り時々晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 5:00

【費 用】マイカー1台 : 3,200円

【メンバー】CL:鈴木、岩淵、岡、関口、福島

【コースタイム】岩舟支所P5:00＝皇海橋P7:30/7:50～

二俣 8:00～不動沢のコル 9:20/9:30～皇海山 10:20/10:30

～不動沢のコル 11:10/11:55～皇海橋P13:20/13:50＝

岩舟支所P17:00

23日(火)に山行のリクエストがあり、この時季紅葉が美しい不動沢からの皇海山を計画した。

アプローチの栗原川林道は悪路で、先の台風で通行止めになり10/13(土)から追貝側からのみ通行可となった。ただし4WD車限定となっており、F島さんの4WD車を借りて5名限定の山行とさせてもらった。

北関東道から関越道を走り、沼田ICで降りて国道120号線を吹割の滝に向かって進み、追貝から



旧道に入って栗原川林道を進む。前回、パンクしたので今回はゆっくり慎重に走り、無事に皇海橋手前の駐車場に着きタイヤは異常が無かった。トイレ内にある登山ポストに計画書を入れ、トイレとストレッチを済ませ出発する。皇海橋を渡ると「皇海山登山口」の大きな標柱があり、ここから左の林道を登って行く。3つ目のカーブから左の山道に入り、不動沢に降りて左岸へ渡渉する。そのまま不動沢の左岸を進むが、途中支沢を何か所か渡渉し道も不明瞭。ただ、赤テープやピ

ンクのリボンが木に付いているので、目印にして進めば迷うことは無い。紅葉が丁度見頃で、赤や黄色の紅葉に癒されながら沢沿いに登って行く。途中、中間点の標識がある平らな場所で休憩し、ナシや菓子を食べエネルギーを補給する。少し先で不動沢に降り、二俣は右へ右俣を進む。沢の中岩がゴロゴロした道を登り、段々と傾斜が増して登りにくなる。支沢との分岐には小さなプレートがあるので、見逃さないよう注意深く進む。二俣から三つ目のプレートから沢を離れ、急坂をロープを頼りに登るのでヘルメットを付ける。



滑りやすい急坂をロープや木の根を頼りに攀じ登り、笹の緩やかな登山道になると間もなく不動沢のコルに出た。前方に鋸山の岩峰群が聳え、水墨画のような景色を眺めながら休憩する。コルから



北に向かって尾根を登るが、原生林の中を緩やかに登る道に皆笑顔が戻った。所々南西側の視界が開け、色付いた山々がとても美しい。しだいに傾斜が増し、岩場をロープで越え薄暗い樹林帯を登ると青銅の剣を過ぎ、まもなく皇海山山頂に着く。山頂には日本百名山皇海山の標識が立つが、樹林に囲まれて眺望は東側が見えるだけ。先行者が2組居てご夫婦の方は昼食を食べていたが、突然写真を撮ってくださいと「日本百名山 89座目 皇海山」の横断幕を広げ山頂標識の

前に立った。Oさんが対応して写真を撮ってあげたが、百座完登でないのに横断幕は初めてのことだ。今日は天気の良い予報だったが、ガスが掛かり陽射しも無く少し寒くなってきた。

リンゴや菓子を食べたら早々に下山開始する。

下山は往路を戻るが、登りが無いので皆快調にコルまで下る。ここでランチタイムとし、うどんを作る。少し寒かったので、温かいうどんは美味しいと食べてくれた。昼食が済んだらヘルメットを被り、鋸山をバックに記念写真を撮って下山開始する。

急坂の下りは滑りやすく、安全に慎重にロープや木の根を伝って降りて行く。不動沢の下降点に着くと皆緊張がほぐれ、紅葉を楽しみながらのんびり下る。沢沿いの紅葉は素晴らしく、皆さん「こんなきれいな紅葉が見られて良かった」と満足していた。無事に皇海橋駐車場に戻り、喜んでいたらアクシデントが起こった。「スーさんパンクしてるよ」と言われ、左後輪を見ると空気が抜けていた。「そんなバナナ！」と思いながら、こんなこともあろうかとスタッドレスタイヤを1本積んできたので大丈夫と交換した。まあ交換時ハプニングは有ったが、タイヤを交換し無事追従まで戻った。



途中、GSでタイヤを見てもらったが、脇に小さな穴が開いており修理不可との事。せっかく日本百名山の皇海山を登破し喜んでいたのに、残念な結果になってしまった。

でも、事故も無く全員無事に下山出来たことを良しとしよう。

